

長雨・日照不足の予報！きめ細かな水管理を！ 病害虫の防除対策を徹底！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

長雨・日照不足の予報となっています。きめ細かな水管理の徹底で、稲体及び根の活力を維持して登熟を促し、高品質米に仕上げましょう！

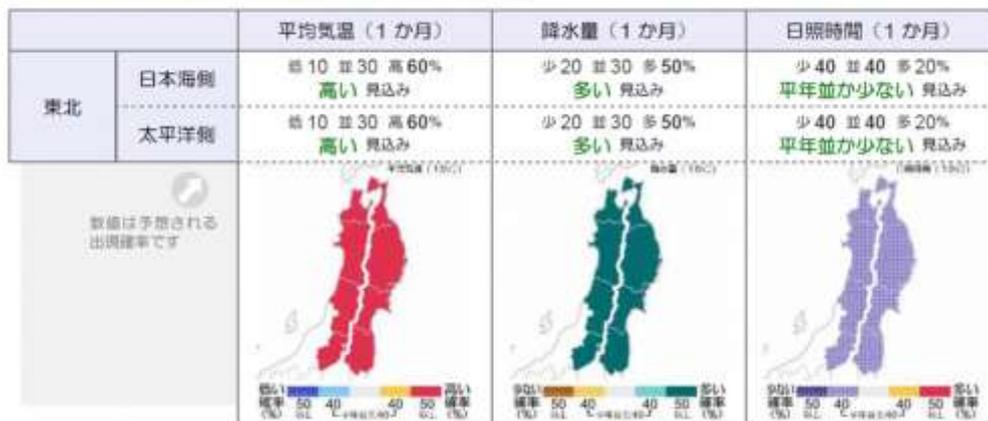
斑点米カメムシ類やいもち病の発生状況を確認し、防除を徹底しましょう。

◎ 今後の気象

8月12日発表の1か月予報（8月14日～9月13日）では、向こう1か月の気温は高く、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

1か月の平均気温・降水量・日照時間

（気象庁HP）



◎ 当面の技術対策

（1）きめ細かな水管理の徹底

- ・長雨、日照不足の予報となっており、登熟が緩慢となって、千粒重の低下が懸念されます。こまめな間断かん水を行って、稲体及び根の活力を維持して登熟を促しましょう。
- ・出穂後6～10日頃の高温が胴割粒の発生に最も影響しますが（図1）、晩生品種においてその時期に該当するほ場が多くなっています。水の入れ替え等でイネ群落内の温度低下に努めましょう。
- ・出穂後20日間の平均気温が28℃以上、最低気温が24℃以上と高い場合、白未熟粒の発生が増加します。間断かん水、飽水管理等を徹底しましょう。

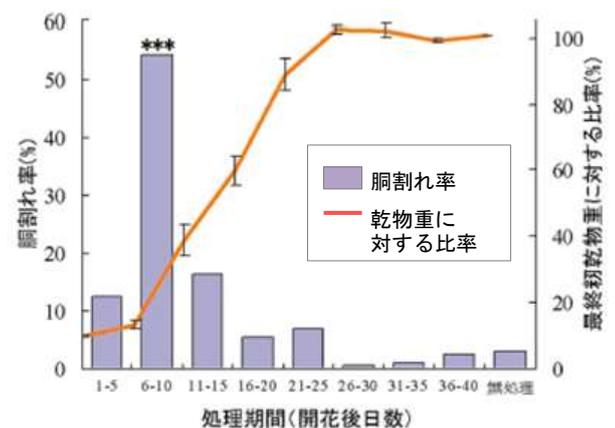


図1 高温処理した水稲玄米の胴割れ率と籾乾物重の推移 (H16年 東北農研)

（2）斑点米カメムシ類、いもち病等の病害虫防除の徹底

- ・斑点米カメムシ類の発生は、平年より多くなっています（7月21日 注意報第2号発表）。基本防除後も発生状況を確認し、補完防除を行うなど対策を徹底しましょう。
- ・長雨で穂いもちの感染・発病が多くなることが予想されます。降雨日が多い場合は、雨の合間を見て薬剤防除を実施しましょう。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

休憩をこまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！